

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

企業、国際的な協力機関と協働しています。ミッションは、包摂的かつ効率的なデジタル・エコシステムの構築、ガバナンス強化、市民サービスの改善・革新の支援です。

現状、主たる焦点は、政府の手続きを近代化するプロジエクトを支援することです。

日本への期待
世界各地から

其

148

アフリカの現状と日本への期待

これにはスマート・モビリティシステム、デジタル認証、安全な支払基盤、そしてデータ統合センターが含まれます。これらの取り組みの共通の目的は、経済の成長を促しながら、公共サービスを身近にし、透明性を高め、市民に使いやすくすることです。

日本で作成しはじめた行動計画によるカイゼンの原則と継続的な活動は、私たちが行おうとすることに深く組み入れられています。とくに一步着実に進んでいくこと、成果を測定すること、組織の

セネガルから

中で一緒に働く考え方を育てていくことに重点があります。

一昨年9月に日本で参加したJICA「カイゼンを超えて」研修を振り返ると、この研修は職業人としての活動と個人としての展望の両方に長期的な影響を与えました。講義や現実に即した事例研究、そしてフォローアップ研修での討議から、変化を積み重ねることの重要性と、問題解決を構造化する原則に従うことを学びました。これらは複雑なDXを指導するにも有効です。

また品質に着目しチームワークを尊ぶ文化を構築する必要性も強調されていました。セネガルではこれらの知見から、直近の結果以上に長期的な影響を見据えるよう同僚たちに推奨しています。聴く力、適応力、関係者を継続的に巻き込む必要性は、日本から持ち帰ることのできた最も重要なものだと考えます。

もちろん当方にもなすべきものはあります。これらの価値をわが社とより広いエコシステムの中で推進し、アフリカと日本の間で実際の革新をつなぐ橋をかけることです。同時に日本がさらに、アフリカへの知識の移転、共同技術開発、またアフリカの成長目覚ましいデジタル経済への投資を進展させることを期待します。品質管理と先進的な製造業における日本の経験は、アフリカの私たちが産業を強化し、若年層のために雇用を創出する上でかけがえのないものです。

あり、問題解決には組織的で、根気と適応力が多分に求められます。

8月に横浜で開催されたT

ICAD9会議は感銘的でした。アフリカとのパートナーシップを強化し、インフラ、デジタル化、持続可能性について、解決策を共に構築しようという日本は明確にしました。起業家でありリーダーでもある私にとって、日本とともに働くことへの確信と動機づけを強化するものです。

結論として、私が日本に期待するのはアフリカのデジタル化の過程で協働、相互に学習しながら、また原理原則、革新、包摂性の価値を共有できる信頼できるパートナーとしてあり続けることです。

【エル・ハジ・マグアイ・フォール、リーム中産連】

（月曜日に掲載）